

大牟田市立手鎌小学校

1 本校のESDの特徴

本校は、「大地に生きる手鎌～わたしたちがつなぐ農業と食文化～」を活動テーマとして、ESDを健康で生きがいのある暮らしとまちづくりのための教育と捉え、ESDの実践を通して、地域を愛し、地域のために共に行動する力の育成を目標とした。

具体的には、地域とのかかわりを深める体験活動を柱に、①食への関心と健康な生活に係わる活動、②地域とつながる農業体験に係わる活動、③地域の食文化体験に係わる活動を行っている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

地域とつながり、地域とのかかわりを深める食育を柱とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、教科、外国語活動、道徳、特別活動との関連を図る全体計画を立てている。

生活科・総合的な学習					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
「はなやさいとなかよし」	「花ややさいの大きくなるひみつはっけん」	「共同農園をつくろう」 「有明海ののり作りについて調べよう」	「共同農園をつくろう」 「郷土の伝統を調べよう」	「学ぼう！郷土の食文化」 『黒崎串だご』	「日本の伝統的な食文化を伝え合おう」 『大豆の秘密』

5

3 特徴的な活動事例の紹介

(1) 食への関心と健康な生活に係わる活動（全学年）

学級活動、体育科、家庭科、生活科において栄養教諭や養護教諭の専門性を生かす学習指導を各学年の児童の実態に応じて計画している。特に、食に関する指導内容である6つの観点を6学年で系統的に位置付け、子ども達が食物の働きを理解し、食品を選択する力や食生活を改善する力を付け、学んだことを健康な生活づくりに生かすことができるようにしている。



(2) 地域とつながる農業体験に係わる活動

【2年生「花ややさいの大きくなるひみつはっけん」】

【3年生・4年生「共同農園をつくろう」】

学校で2頭のヤギを飼育しており、ヤギの糞を活用して堆肥づくりをしている。その堆肥を利用して地域の方と一緒に共同農園で野菜を栽培している。3・4年生は「子ども朝市」を開催し、栽培した野菜を地域の方々へ販売した。野菜づくりについて会話をしながら笑顔で販売するなど地域との触れ合いを楽しむことができた。



朝市で野菜を販売する子ども達

(3) 地域の食文化体験に係わる活動

【3年生「有明海ののり作りを調べよう」】

自分たちの校区の様子について調べる学習を行う中で、手鎌校区で海苔の生産が行われていることをとらえた。「海苔作り」は、手鎌校区が面している有明海で行われ



ている伝統的な産業であり、食文化である。子ども達は「海苔作り」について、地域で海苔作りに携わっている方に話を聞いた。その中で、伝統を受け継ぐ地域の方々の思いや願いについて理解し、全国に誇れるおいしい「有明海苔」を生産している地域のよさや特色について知ることができた。本年度は、コロナウイルス感染予防のため計画していた海苔漉き体験を実施することはできなかったが、子ども達は学習を通して「有明海で行われている海苔作りの伝統を守りたい。そのためにも、有明海をきれいな海にしていきたい。」との思いをもつことができた。

【4年生「郷土の伝統を調べよう」】

地域学習を行う中で、自分達が住む手鎌校区のことや地域の人達のことをもっと知りたいと考えた。そこで地域の方をG Tに招いて手鎌の歴史についての話を聞いたり、資料を調べたりする活動を通して「自分達が住んでいる場所は昔は海だった。」「手鎌校区の多くは1000年もの間の干拓によってできた。」「機械のない時代、干拓の仕事は大変な仕事だった。」ということを知り、広大な手鎌の土地が、先人の大変な努力と苦勞によって築かれたことを驚きと感動をもってとらえていた。その後、「潟いね保存会」の方から「潟いね踊り」を教わり、干拓についての学習をさらに深めた。子ども達は「『潟いね踊り』は、厳しい干拓の仕事をこの唄を唄いながら乗り越えてきたと言われている。」「きついばかりではなく、自分達の仕事にほこりをもっていた。」「保存会の皆さんは、この踊りを大事にしている。だから、わたしたちが守り伝えていきたい。」などと、手鎌をつくった先人の思いを捉え、学んだことをリーフレットにまとめて地域に発信した。



潟いね踊りを教えてもらう子ども達

その後、「潟いね保存会」の方から「潟いね踊り」を教わり、干拓についての学習をさらに深めた。子ども達は「『潟いね踊り』は、厳しい干拓の仕事をこの唄を唄いながら乗り越えてきたと言われている。」「きついばかりではなく、自分達の仕事にほこりをもっていた。」「保存会の皆さんは、この踊りを大事にしている。だから、わたしたちが守り伝えていきたい。」などと、手鎌をつくった先人の思いを捉え、学んだことをリーフレットにまとめて地域に発信した。

【5年生「学ぼう！郷土の食文化『黒崎串だご』】

干拓の仕事や農作業の合間に食べられていた食べ物である「黒崎串だご」の原料である米を作るために、地域の方に指導してもらいながら6月に田植え、10月に稲刈りを行った。12月に地域の方の協力を得て、串だごづくりを行い、「黒崎串だご」づくりが大切に守り継がれてきたことや伝統的な作り方を学んだ。これらの体験を通して、子ども達は、自分達がこの伝統ある食文化を守り継いでいかなければならないと考えた。



地域の方と串だごを作る子ども達

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・農業体験を通して、食と地域の人々への感謝の心の深まりが感じられる姿や手鎌を拓いた先人、農業や文化の伝統を守る人々の思いを引き継ぐ意志をもち行動する姿が見られるようになった。
- ・農業と食で学校と地域をつなぎ、まちづくりに参画・貢献する意欲と態度を育てることができた。

○課題

- ・日常の教育活動とSDGsの目標の関連付けを行い、児童に意識付けを図るとともに、活動で学んだことを生かして、自分ができていることを考えて主体的に行動する力を育成する。